



盛夏期は、ハダニ類・シンクイムシ類の最重要防除時期となります。本年は、日中の高温で主要害虫の発生が早く、生育サイクルも早い状況です。この時期の防除不徹底は、果実成熟期の食害を引き起こす要因となりますので、定期散布は遅れないようにある程度余裕を持って進めましょう！併せて、こまめな病虫害発生調査も併せて実施しましょう。

りんご 8月上中旬の散布

散布時期：8月5日～10日（前回散布15日後頃） *注意事項②参照

散布日： 月 日

散布量： 月 日

散布薬剤：水 100 ℓ

展着剤 10ml

劇 バリアード顆粒水和剤 50g（前日、3回） *注意事項④、⑦参照

ダイパワー水和剤 100g（14日前、3回） *注意事項③参照

散布量：10a当り 600 ℓ *注意事項⑥参照

対象病虫害：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ・カメムシ類 *注意事項⑤参照

【注意事項】

***必ずお読みください ↓**

- ① さんさ・シナノレッド等の極早生種には飛散しないように注意してください。（収穫前規制）
- ② つがる等の早生種最終防除となります。収穫開始14日前までには散布すること。
- ③ 8月に入り雨が多く褐斑病の発生が心配される場合は、ベンレート水和剤3,000倍（前日、4回）を加用すること。
- ④ シンクイムシ類の発生園は、ディアナWDG10,000倍（前日、2回）を加用すること。
- ⑤ ハダニ類の発生が見られる園は、殺ダニ剤のカネマイトフロアブル1,000倍（7日前、1回）又はダニゲッターフロアブル2,000倍（前日、1回）を加用しても良い。
- ⑥ 園地の外周等死角がないように、散布量は多めに設定すること。また、薬液が良くかかるように徒長枝切りや支柱立て等も積極的に実施すること。
- ⑦ 農薬（毒物・劇物）をお買い求めの際は、印鑑をご持参ください。
- ⑧ 代替農薬等については、営農センターまでお問い合わせください。（TEL 23-3933 まで）

次回定期散布予定：8/20～25

今回は、引き続きハダニ類やシンクイムシ類の重要防除になります。昨年、被害が大きかった園では、散布間隔は短めに設定しましょう！詳しくは営農センターまでお問い合わせください。

りんご早生種の栽培管理は裏面をご覧ください。

〔りんご収穫前規制と使用回数〕

◎注意事項

収穫期が近づいた品種は、特に収穫前規制に注意する。

	農薬名	収穫前規制	使用回数		農薬名	収穫前規制	使用回数	
殺菌剤	ダイパワー水和剤	14日前	3回	殺虫剤	サイアノックス水和剤	30日前	3回	
	オキシラン水和剤	14日前	4回		④ ダーズバンDF	14日前	2回	
	キノンドーフロアブル	14日前	4回		④ バイスロイドEW	7日前	4回	
	キノンドー水和剤 80	14日前	4回		サムコムフロアブル	前日	3回	
	オーソサイド水和剤 80	14日前	6回		④ オリオン水和剤 40	前日	2回	
	アリエッティ-C水和剤	14日前	3回		アルバリン顆粒水溶剤	前日	3回	
	ベンレート水和剤	前日	4回		ノーモルト乳剤	前日	2回	
	④ ベフラン液剤 25	前日	6回		④ バリアード顆粒水和剤	前日	3回	
	フrintフロアブル 25	前日	4回		④ ロディー水和剤	前日	2回	
	ストロビードライフフロアブル	前日	3回		殺ダニ剤	カネマイトフロアブル	7日前	1回
	トップジンM水和剤	前日	6回			オマイト水和剤	14日前	1回
	ナリア WGD	前日	3回			コロマイト乳剤	前日	1回
						マイトコーネフロアブル	前日	1回
			ダニサラバフロアブル	前日		2回		
			ダニゲッターフロアブル	前日		1回		
			スターマイトフロアブル	前日		1回		

1. 早生種の着色管理について

① 日焼け果防止のため、果実温の高い日中に作業を行い、早朝や夕方、果実温の低い時間帯には行わないこと

② 徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る

③ 葉摘みは、収穫の7～14日前から始め、2回は実施する

・1回目：日焼けに注意しながら、果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う

・2回目：着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施し、遅くとも8月下旬には終了させる

④ 一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する

⑤ 玉回しは、果実が30%程度着色したら1回目を実施し、その後に葉摘みと併せて2回目を実施する。

*直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しないこと！本年は早い段階で日焼け果が発生しています。

【収穫時の注意】

① 着色のみではなく尻部の地色の抜け具合も注意する。つがるの収穫は高温時であるため、過熟果の発生がないよう熟度を考慮しながら行う（着色ではなく鮮度重視とする）

② 同一の樹のなかでも果実により熟度の差があるので、数回に分けて収穫する

③ 鮮度保持のため、日中の高温時の収穫は出来るだけ避ける。収穫した果実は日陰などの涼しい場所に積んでおくこと

【灌水・土壌管理】

① 高温・干ばつにより土壌水分の蒸散が激しい時期なので早めに灌水を行い、降雨が5日以上ない場合は早めに実施する。（水分不足は果実肥大に影響し、水分ストレスはつる割れ果等の発生を助長する恐れがあるので注意する）

2. 早生種の落果防止剤の散布について

① 対象品種：つがる

② 使用薬剤：ストップール液剤

③ 使用時期：収穫開始予定の25～7日前（2回まで登録あり）

④ 使用倍率：1500倍（水100ℓに66ml・展着剤は加用しないこと）

⑤ 散布量：500ℓ/10a

⑥ 使用方法：収穫開始予定の15日前に1回散布処理

・8月中下旬出荷の場合：8/5頃（できるだけ早めに！）

・9月1日以降出荷の場合：8/15

*ただし収穫前規制のため、収穫開始は散布後7日間経過後とする

✚ 散布にあたっての注意事項

① ホルモン剤ですので他の農作物、特に野菜等にかからないように注意する（生育障害・葉害発生の恐れ）

② 単用散布を厳守（他剤との混用は絶対にしない）

③ 乾燥条件下では効果が低減するので、定期的なかん水を行う。（園内の湿度を上げておくこと）

④ 展着剤は加用しないこと

⑤ 落果防止剤を散布すると熟度が早まり、果肉軟化を助長しやすいので、熟度に注意して収穫する。